

はじめに

2008年の日本の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比8.9%増の7,759億ドル、輸入が21.7%増の7,561億ドルとなり、輸出額は7年連続で拡大しましたが、世界経済の減速を反映し、第4四半期には前年同期比で11.9%落ち込んでいます。輸入は6年連続で拡大、上半期の資源高を背景に8年ぶりに20%超の伸び率を記録しました。

国・地域別にみると、輸出は、経済が後退入りした欧米向けが落ち込んだのに対し、第3四半期までは中国、ASEAN、中近東地域への輸出が比較的堅調に推移しました。しかし、第4四半期以降は、ほぼ全ての地域で減少しました。日本にとって最大の輸出先になりつつある中国への輸出額は、13.7%増の1,240億ドルで、電気機器、一般機械や鉄鋼が輸出の伸びを牽引し、輸入は、鉱物性燃料が輸入全体の3割超を占めました。その他では、一般輸送機器や電気機器が比較的順調に拡大しましたが、自動車などは販売不振などを背景に減少となりました。

日本の貿易相手国の第1位は輸出がここ11年米国で、第2位は2001年より中国が占めています。輸入は2002年より中国がトップで、次いで米国が第2位の地位を保っています。2008年の輸出相手国の3位以下は韓国、台湾、香港、タイ、シンガポール、ドイツ、オランダ、マレーシアとなっており、輸入相手国の3位以下はサウジアラビア、オーストラリア、アラブ首長国連邦、インドネシア、韓国、マレーシア、台湾、ドイツとなっています。

このような状況のなか、伏木税関支署統計によると、富山県管内の2008年の貿易は、輸出が2,948億円（前年比9.3%増）、輸入は3,692億円（12.4%増）で、総額6,640億円（前年比11.0%増）を達成し、輸出入とも6年連続過去最高を更新しました。この増加の背景には、アジア地域との貿易拡大、ロシアへの自動車輸出、また原油及び粗油の輸入の増加が大きく寄与しています。

本調査報告書は2009年10月、富山県内の事業所1,417社に対し実施し、179社から回答をえ、とりまとめました。本書が関係各位の皆様の参考になれば幸いです。

最後に本調査にご協力いただいた富山県内企業、事業所の皆様にはこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

富山県
（財）富山県新世紀産業機構
日本貿易振興機構
富山貿易情報センター
（ジェトロ富山）